

山陰における共同配送と都市部への中継輸送の実証

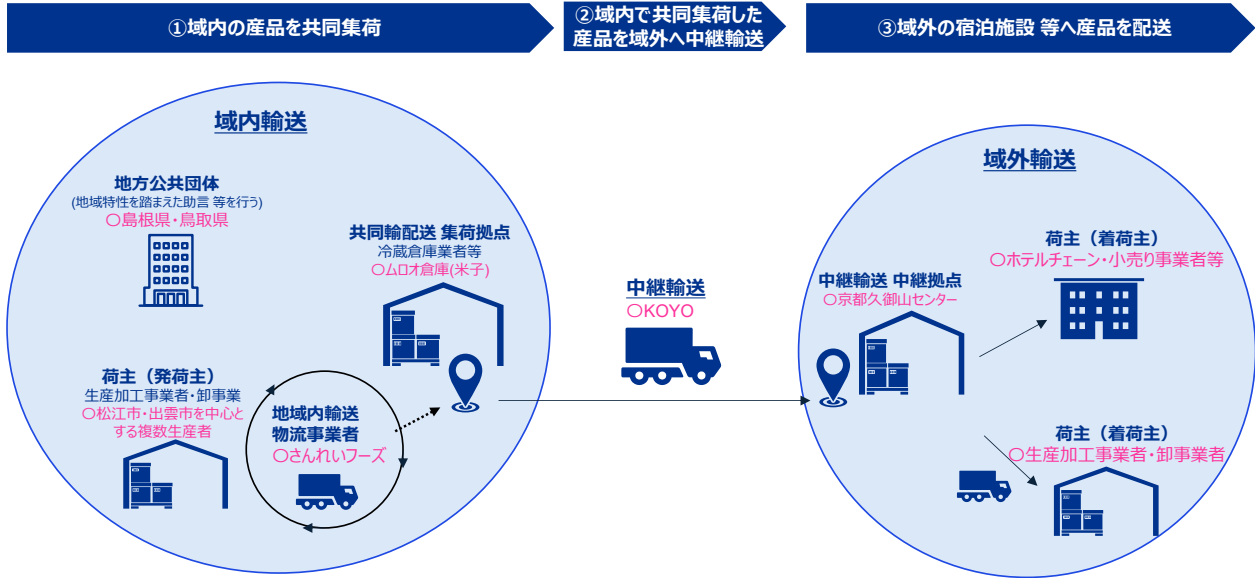
協議会名:山陰地域ブランド力向上に向けた物流検討協議会(仮称)協議会

- 協議会構成員
- ・ 幹事企業:株式会社さんれいフーズ
 - ・ 荷主:株式会社さんれいフーズ、JAしまね(仮)
 - ・ 物流事業者:株式会社J・MADE、ヤマサン物流株式会社
 - ・ 自治体:島根県、鳥取県

【事業実施背景】山陰には、高付加価値な地域産品が多数点在するも、小ロットで品質管理が難しい品目が多いため、荷主の多くを占める中小企業にとって、都市部への出荷が難しい状況である。昨年度事業における調査では、共同配送の仕組みの必要性・中継輸送に関する課題等が抽出されたことから、地域商社を設立し課題解決に取り組む事業計画を策定した。昨年度の時点で大枠の方向性は定まったが、具体的な共同配送・中継輸送に向けた方針策定が未済のため、今年度において当該実証に取り組むこととした。

事業内容

- Point
- 以下の、①～③に関する物流実証を実施
- ① 共同配送:さんれいトラックを用いて山陰域内集荷を行い、米子へ集約
 - ② 中継輸送:KOYO戻り便を活用して、米子から京都へ中継輸送を実施
 - ③ 域外輸送:京都等を中継拠点とし、関西圏ホテル(5か所想定)へ配送



想定事業実施効果

- 【目指す姿】
- ・ 地域産業として地域内外で競争力のある地域産品ブランドを確立していくことを目指す
 - ・ 上記に向け、競合企業間・異業種間の共同輸配送、中継輸送等を通じて、持続可能な物流網を構築すると共に、効率化による物流コスト削減を目指す

- 【定量目標(配送コストの削減)】
- ・ 算出式:集荷/配送コスト削減額(円/月) = A-B
 - ・ A:荷主・生産者が集荷配送に運送事業者を支払ったコスト(事業開始前、190万円/月)
 - ・ B:本事業に参画した荷主・生産者が集荷配送に支払ったコスト(事業開始後、120万円/月)
- ⇒約70万円/月のコスト削減効果を見込む
(余剰倉庫活用の削減効果等もあり、今後要追加)